しかしこの洪水での堤防決潰は、耶麻郡堂島村大田木地内の濁川左岸二八〇メートルが顕著なだけで、堤防の表法決潰は、阿賀川本流の青木地内で一〇〇メートル、会知地内で二〇〇メートル、立川地内で一〇〇メートル神指南四合で三〇〇メートルに達したが、北会津村地内では被害は比較的少ない、真宮地内で一〇〇メートルの決潰にとどまった。これらは復旧費だけで一二、〇〇〇、〇〇〇円にも達したが、改修の効果は各地域で認められ、住みついている人々にも、洪水に対する人為的構築の威力を示した観があった。

昭和二十三年の台風はアイオン台風と呼んでいる。九月十五、十六、十七日の田島の連続雨量は二〇一・四ミリ、若松一〇一・五ミリ、坂下一〇六・〇ミリ、喜多方一〇九・〇ミリで、カスリン台風に較べてはるかに少なく、宮古量水標の最高水位も四・三〇メートル、山科で六・〇〇メートルにとどまった。

被害は床上、床下浸水三〇〇戸、宅地三三戸、水田一、五四〇町歩、畑五八〇町歩、流失・埋没、人的被害としては死者二、傷者一を出している。堤防決潰は神指中四合地内二五〇メートルほどで、他の改良個所では、耶麻濁川左岸小段が三カ所、計四五〇メートルが決潰、同じく田付川左岸三〇メートル決潰、阿賀川本流では、左右両岸数個所に洪水敷欠け込みがあった。しかしこの復旧費は容易でなく、三六、六八〇、〇〇〇円にも達した。

昭和二十四年のはキテイ台風とよんでいる。八月三十一日相模湾から上陸して、中心は熊谷市を通過して新潟県にぬけた。ために三十一日午前十時頃より降雨、翌九月一日の二日連続雨量若松一〇四・三ミリ、八月三十日より降雨をみた田島の三日連続雨量二一五・五ミリ、福良二四一・八ミリ、湯本三八二・七ミリと奥会津の一部には豪雨があった。特に湯本に局部的大豪雨があり、四〇〇ミリ近い東北地方では異常な大量降雨のあったことは注意しなければならない。それは、嘗て北会津村を対角線に放流した旧鶴沼川の本流が、この湯本方面の降水量を集めてきているからである。このような気象状態は、古い時代からみてくると、決して偶然的現象とは思え